

2017年度事業報告書

(2017年4月1日～2018年3月31日)

次代を担う子ども達の健全な心身の育成に資するため、芸術へのふれあいの場を創出する音楽会の開催、学校図書館の一層の活性化に向けた姫路市内の小・中学校へ図書寄贈。市内小・中学生を対象に、参加者の健康増進と競技力向上に貢献することで、地域スポーツの振興を図ることを目的とする実業団陸上選手による一日陸上教室の開催、また、生涯学習に係る機会の提供を図るため、文化講演会の開催等、地域文化の振興に寄与することを目的として事業を行った。

1. 芸術活動の推進及び援助に関する事業

◇◆ ニュー・イヤール・コンサートの主催 ◇◆

- ①運営費用 1,000千円
- ②開催日 2018年1月14日(日)
- ③開催場所 姫路市文化センター大ホール
- ④主催 (公財)山陽特殊製鋼文化振興財団
姫路市教育委員会
- ⑤後援 神戸新聞社
- ⑥実施内容



児童・生徒の皆さんが、音楽活動を通して、豊かな人格形成の一助になることを願い、熱心に音楽活動を行っている市内の小・中学校に対し、本格的音楽ホールで発表の場を提供し、音楽活動を支援すべく、姫路市教育委員会と共催で開催した。

今回で第23回目を迎え、市内の小・中学校3校と中学校3校が合唱した他、吹奏楽で市内の中学校1校が合同出演した。また、招待校として市川町立市川中学校が昨年に引き続き出演した。出場者数は約290名。

合唱演奏校は、「大空のカーニバル」、「この歌を」、「ドンマイ～Don't mind」、「風になる」、「遙か」、「きみ歌えよ」など、各校とも爽やかな歌声で2曲ずつ披露してくれた。

女子生徒48名、男子生徒6名編成の山陽中学校吹奏楽部は、ハンスジマーによる1991年公開の映画「バックドラフト」のテーマ曲と行進曲「ハイ・ホー」の2曲をパワフルに演奏してくれた。

招待校の市川町立市川中学校音楽総合部は唱歌「故郷」と、「はっか草のようになりなさい」と亡き母の教えを歌った「はっか草」を哀愁たっぷりに聞かせてくれた。

また、模範演奏として、多久潤子さんのピアノ伴奏で、バリトンの北村僚真さんによる「さびしいカシの木」と「あわて床屋」、ソプラノの清野千草さんによる『ロミオとジュリエット』より「私は行きたいの」の独唱と二人による二重唱「オー・ソレ・ミオ」が披露された。

最後に、吹奏楽演奏をバックに、出場者と観客とで、東日本大震災からの復興を祈願する楽曲として歌われている「あすという日が」を全員合唱し締めくくった。

- ★出演校 <合唱>
 姫路市立網干・津田・安室 各小学校
 姫路市立朝日・広嶺・灘 各中学校
 <吹奏楽>
 姫路市立山陽中学校
- ★招待校 <合唱>
 市川町立市川中学校
- ★模範演奏 <若手声楽家の独唱・二重唱>
 ソプラノ 清野 千草さん
 バリトン 北村 僚真さん

2. スポーツ活動の推進及び援助に関する事業

◇◆ 実業団陸上競技部による陸上教室の主催 ◇◆

- ①運営費用 539 千円
- ②開催日 2018 年 3 月 27 日 (火)
- ③開催場所 しらさぎ姫路みなとドーム
- ④主催 (公財) 山陽特殊製鋼文化振興財団
- ⑤共催 姫路市
- ⑥後援 神戸新聞社



⑦実施内容

姫路市内の小学校 4 年生から中学校 3 年生を対象とする「実業団陸上選手による一日陸上教室」を開催し、参加者の健康増進と競技力向上に貢献することで、地域スポーツの振興を図ることを目的とするもので、今回が第 2 回目の開催となり、小学生男女 59 名、中学生男女 6 名の計 65 名（前年度は 73 名）が参加した。

教室では、山陽特殊製鋼陸上競技部の家谷監督から、ストレッチから「肩甲骨や股関節を使った動きを意識して」など、効果的なウォーミングアップの方法を指導。最後に、参加した子どもたち全員と陸上競技部選手との混合 7 チームに分かれてタスキを繋ぎあう、1 周約 500m のミニ駅伝を行い、子どもたちと陸上競技部選手の懸命な走りで会場は大いに盛り上がった。

3. 文化の普及及び啓発に関する事業

◇◆ 市内小学校へ図書への寄贈 ◇◆

- ①寄贈内容 512 冊 741 千円
 (目録代含む)
- ②寄贈先 19 校 (別紙ご参照)
- ③寄贈時期 2017 年 10 月
- ④実施内容



子どもたちが本を通じて多くの知識を吸収し、豊かな人間性を身に付け、将来の人間形成の礎となる場を提供すべく、子どもたちにとっての一番身近な図書館である学校図書館の一層の活性化に向け、姫路市内の小学校に希望図書を寄贈するもので、寄贈校 19 校を代表し、当財団理事長から、2017 年度の小学校校長会副会長校の天津小・^{かみそのまさこ}神菌方子校長に対し、11/20（月）に寄贈図書の目録贈呈を行った。

⑤閲覧状況 寄贈図書活用状況報告書（別紙“天津小学校”提出分ご参照）

◇◆ 文化講演会の主催 ◇◆

- ①運営費用 1,008 千円
- ②開催時期 2017 年 6 月 2 日（金）
- ③開催場所 姫路市文化センター大ホール



④開催内容

◎演題

『「^心」で走る』

◎講師 ^{せ ことしひこ}瀬古利彦 氏

（元マラソンランナー、横浜 DeNA ランニングクラブ総監督）

⑤実施内容

今回で第 26 回目を迎え、元マラソンランナー、横浜 DeNA ランニングクラブ総監督の瀬古利彦氏を講師に迎え、『「心」で走る』の講演に、1,200 名近くの聴講者が最後まで熱心に耳を傾けた。

講演の中で、瀬古氏は、伝統の箱根駅伝に触れられ、「最近の若い選手はもてはやされ、格好良くや合理的に走ろうとする。それはナンセンス」と批判され、マラソン転向のきっかけとなった恩師中村監督とのエピソードを紹介され、監督方針で恋人もつくり、外食もせずに監督と向き合った過去を明かされ、「泥臭く練習するしかない。いかに早く走るかを考えないと成長が止まる」と指摘されました。プラス思考の大切さも強調され、「勝てるかなという程度の気持ちでは、絶対に勝つと息巻く選手には負ける。けがやスランプは必ずある。でもそういう時こそ強くなるチャンスと捉えてほしい」と力説されました。会場に詰めかけた高校生の陸上部員たちに向かって、「練習で泣いて、試合で笑え」、「若い時に流さなかった汗は、年を取ってから、涙として流すことになる」、「継続は力。同じことの繰り返しでも常に新鮮な気持ちを絶やさない」、「いつも一番でゴールするイメージトレーニングをしておく」、「絶対に勝つと自分を信じる」と呼び掛けられました。また、瀬古さんの講演での金言は、“人生死ぬまで現役”とマラソンをこよなく愛されているシニア瀬古ファンの方たちにとって貴重なものであったようです。

2017 年度事業報告の附属明細書

2017 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しない。